

小学生の「戦争」

袋谷一郎

私の戦争体験は、小学5年生までと、6年生と、その後「戦後」です。

先ず前期からお話しします。私が生まれた昭和8年（1933）は十五年戦争（満州事変）の3年目です。4歳頃の写真で、子ども用の軍服と軍帽を着ていたのを覚えています。2度の空襲で焼かれて子どもの頃の写真是、一枚も残っていません。

小学校へ行くまでの記憶として頭に残っていますのは歌で、それもほとんどが軍歌です。「僕は軍人大好きだ、今に大きくなつたら、勲章つけて剣下げて、御馬に乗つてはいどうじう」と歌つたり、「敵は幾万あります、すべてうざうのせいなないまま、歌いました。それは今でも歌えます。森友学園で教育勅語を幼稚園児に暗唱させるのと、まったく同じです。私は教育勅語を、小学生になつてから覚えました。

4歳（1937）の夏、支那事変と言つた日中戦争が始まりました。出征兵士を送る歌を皆で「わが大君に召されたる、命はえある朝ぼうけ、たたえて送る一億の歓呼は高く天をつく、いざ行けつわもの、にっぽん男児」と歌つて送りました。学校で昼食の前は、「皇國に生を受けたことを喜び、「一汁一菜に皇恩を感謝し、臣道実践のまことをささげましょ」と合掌しまし

「とも」の昨年9月号に掲載した戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

そして2年生の12月8日には、「天佑を保有し、万世一系の皇祖を祀める大日本帝国天皇は明るかに忠誠勇武なる汝ゆうしうに示す、朕はここに、米、英に対して戦ひを宣す」と大東亜戦争「太平洋戦争」が始まりました。

子どもの頃の記憶で、辛かつたことの一番は、やはり食べ物が足りなかつたことでしょう。遠足に持つて行くおやつを、母親と一緒に商店街で買いました。2年生の遠足では、おやつは売つてなかつたようになります。生徒の数が多くて、2年生だけ分校舎で勉強しました。自宅が近くにあり、母が扈前に弁当を届けてくれたのを覚えています。

この頃はまだ米があつたのです。12月8日に太平洋戦争が始まり、だんだん物資が不足してきました。前年に生まれた弟の、ミルクの配給も覚えています。私は歌が大好きで、子どもたちの頃覚えた歌は今でも歌えます。その歌詞はまったく軍国主義教育そのもので、意味はわからなくとも、節をつけて、大きい声で歌つてはいるうちに、何かその気分になつて来るようになっています。

今意味を考えながら歌つて、何とひどいことを強制されていたかと、驚きます。「勝つて来るぞと勇ましく誓つて国を出たからは、手柄立てずに死なれよか、進軍フッパ聞くたびに、まぶたに浮かぶ旗の波」。（次号に続く）

寄稿 私の戦争体験

〈10〉

力ギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何？

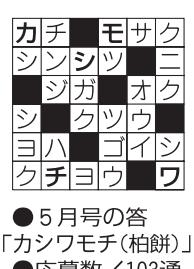
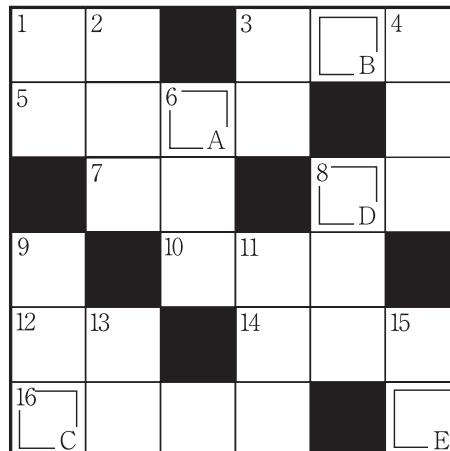
タテのキー
①難間に手も〇〇も出な
②男子の対
③○○式相場

ヨコのキー
④語格や意味が対照的な
二つ以上の句を並べて
表現する技巧
⑥靴——は2階です
⑧ヒトコブ——
⑨最高気温が25℃以上の
日
⑪願い出——退職

ヨコのキー
⑤レース終盤——に出
る
⑦○○滅裂
⑨マウンテン——に乗る
⑩蛙の○○に水
⑫蛙の○○に水
⑬胡蝶○○
⑮○○揚々と凱旋する

お楽しみクイズ

クロスワードパズル



●5月号の答
「カシワモチ(柏餅)」
●応募数／103通

短歌

俳句

川柳

安倍政権加計学園とお友達
自衛隊に銃を持たせる自民党

安東 利彦
長谷川良雄

ゆれゆれし目抜き通りの夏柳
葉草の話もちきり野に遊ぶ
母の日に母より生きて合掌す
冬枯れに抜く寸前の山椒葉
緑濃いく又芳しき

宮崎金次郎
宮本 清志
柿本 初野
福渡 澄子

*句を詠む時の情景や思いもお寄せください。
＊俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2017年8月9日（水）です。
＊特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

編集後記

5月号の本多さんの戦争体験で、堺大空襲が7月20日となっていたのは誤りで、7月10日に訂正してお詫びします。

6月4日に茶山台9条の会10周年の企画、全盲の落語家桂福点さんとの平和語り

を聞いてきました。笑いの中に平和の尊さ・戦争の悲惨さが込められている感じました。なかでも「戦争になると、私の障害者は真っ先に切り捨てられる」との福点さんの言葉が耳から離れません。戦争も命の切れ捨てもない世界になるよう、願っています。

会員紹介
高石北支部
頓田 充さん



(26)

が、3年後に退職して大学に進学しました。健康保険の未加入者となつたまま、間もなく肺結核にかかり、医療扶助を申請しました。

全日制高校に入学したばかりの妹がいたので、扶助は受けられないと言われました。その時は自殺を考えた。妹は定期的に転学しました。生来病弱で、しばしば病院のお世話を、その都度適切な治療を受け、時に命拾いしました。医師、看護師、家族、友人などのお世話をしながら、今年米寿を迎えることができました。

耳原病院には、長男が2歳の時入院して大変お世話を、その後お世話になり、しばしば家族でお世話になりました。耳原病院には、長男が2歳の時入院して大変お世話を、その後お世話になりました。

今、各地で患者と病院のトラブルなど多発しています。友の会では患者の要望を聞き、病院側に要望や提案をしています。最新の医療にも適応した、ますます信頼される病院になることを願っています。